

## 風車の運用開始から 20 年

令和 4 年 10 月末をもって運転を停止

「花咲く未来に 人と自然が根付く町」を基本テーマに、自然を生かした町づくり推進のため、平成 15 年度から導入された「太陽の里・中央運動公園風力発電所」が、令和 4 年 10 月末をもって運転を停止し、約 20 年の歴史を閉じました。

この「風車」は、総事業費 1 億 8 6 6 0 万円で、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）補助金を活用しており、総売電収入額は、令和 4 年で約 2 億円分の発電を行いました。

しかし、今後の運用にあたり、出力制限や遠隔装置の取り付けなど、かかる費用も大きく、その費用対効果や、劣化に伴う危険性などの観点から、長らく町の象徴として親しまれた「風車」もその役目を終えることとなりました。

約 20 年の間「風車」を親しみ、本町のエネルギー施策へのご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございました。



20 年間ありがとう。  
お疲れさまでした。

## 地域おこし協力隊通信 (No. 70) 風車に気づかされたこと

平成 15 年から稼働している太陽の里の風力発電機が、本年で稼働を終えました。この風車は、クリーンエネルギーの利活用だけでなく町のシンボルタワーとして多くの人々に親しまれてた聞いています。私は町内各地をドローンを使って空から撮影することがあるのですが、太平洋側から陸上競技場を撮影したときの美しさは、他のどんな景色にも例え難いものです。その中で圧倒的に存在感のある全高約 59 メートルの風車は、20 年もの間、町民の皆さんに愛されてきたのだと実感できる迫力です。こうして愛されてきた町のシンボルの活躍をこの目で見るのができた幸運に感謝しています。

この風車だけでなく、形あるものはいつかなくなってしまう。あの空き地にはもともと何が建っていたのか、なくなってみればいまひとつ思い出せないということがありませんか。そこに在るときはじっくり目に留めることもないのに、なくなるとなんだか寂しく感じてしまう。そんな風にして、町の風景も少しずつ新しいものに生まれ変わっていくのだと思います。



空から撮影した風車と陸上競技場

私は移住して 2 年半しか経っていません。まだまだ町内の知らない景色、見たことのない建物もあると思います。そんな景色も刻一刻と移り変わっていくと思えば、ぼんやりとしてはいられません。ふだん観察しない国道沿いの景色。店先の手入れされた鉢植え。そうした風景をひとつひとつ目に焼き付け、なくなったとしても、いつまでも覚えていたいと、私は風車に気づかされたのです。

―湯目知史（ゆのめともふみ）―  
中種子町地域おこし協力隊員。宮城県出身。種子島の美しい瞬間を文字にして伝えるライター。